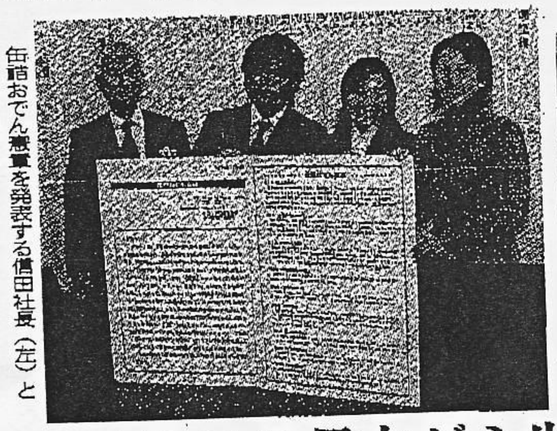

朝日新聞 06.11.06

青鉛筆

▽大根、たまご、こんにゃくの3品は原則入れるものとする――「おでん3原則」をはじめ、前文と9条の条文からなる「缶詰おでん憲章」ができた。6日に発効する。

▽第4条では「味の地方自治」を宣言し、第9条では、多様な食材が共存する缶詰おでんを、「互いを尊重しあいながら生きる国際平和の象徴」とうたった。

▽千葉県銚子市の缶詰会社が憲章を発案。憲法学者の水島朝穂・早大教授のゼミ生7人が起草に協力した。監修した水島教授は「日本発の平和の健康食品に」。

毎日 06.11.08 東京版

「缶詰おでん憲章」発布

〔銚子の水産加工会社 早大生らが起草協力〕

銚子市の水産加工「信田缶詰」（信田臣一社長）が6日、早稲田大学の学生の協力で「缶詰おでん憲章」を発布した。日本の伝統料理「缶詰おでん」を食べながら、憲法論議を深める狙いがある。

同大法学部の水島朝穂教授が監修。同教授ゼミの桑本千紗都さん(22)＝同大法学部4年＝ら学生7人と同社が憲章を起草。「おでん缶詰は保存性と耐久性に優れ、日本の伝統料理を簡易、安価に提供できる」などの前文をはじめ、第1条（個人の尊重）では「鍋を囲んで『みんな』で食べる仲むつまじい一家の象徴で、一人暮らしの老人らの心と体をあたためる」などの効用を説くなど9条まである。

「憲章」の話は水島教授が同市へ6月に講演に来た際に、信田社長が憲章制定を依頼。その後、ゼミの学生らと缶詰おでんが人気の東京・秋葉原電気街を散策、新宿で「おでん談議」

つつきながら熱～い談議

などを重ね、

心になって作

同市役所で

の桑本さんは

の私にとって

缶詰はなくては

在。食べなが

ケーション力

の」と話した。

「厳しい経営

界や農、水産業

につながる」と

日経 11/8

千葉

「缶詰おでん憲章」制定

信田缶詰、早大と協力

「おでん」かくあるべし―。水産加工の老舗の信田缶詰（千葉県銚子市、信田臣一社長）は、早稲田大学の協力を得て「缶詰おでん憲章」を制定した。おでんの効用や歴史、場所や年齢を問わず手軽に食べられる特徴を記したほか、災害時の保存食としての役割などを定めた。

第1条「一家だんらんの象徴」

憲章を広く公開することで缶詰おでんの認知度向上をはかる。

憲章は前文と九条の条文で構成する。第一条「個人の尊重」では「おでんは一家だんらんの象徴であり、老人、若者の心と体をあたためる」などと効用を説明。第四条「食材選択と地方性」では「食材には、できる限り地域特産品を生かす」と地産地消の推進をうたっている。

憲章は銚子市に講演にきた早稲田大学の水島朝穂教授に、信田社長が作成を依頼したのがきっかけ。水島教授のゼミ生七人が「おでんプロジェクト」をつくり原案を作成、水島教授が監修した。

同社は今後、ホームページなどで公開する。他の缶詰おでんメーカーとの協力も模索しながら普及をめざす。

県東

銚子発「缶詰おでん憲章」

信田缶詰 早大ゼミ生の協力で制定

銚子市の老舗缶詰会社「信田缶詰」（三軒町、信田臣一社長）は六日、早稲田大の憲法学者、水島朝穂教授とゼミ生の協力を得て、缶詰おでんのあるべき姿を条文化した「缶詰おでん憲章」を制定した、と発表した。

憲章は今年六月、同市を講演で訪れた水島教授に信田社長が作成を持ちかけたのがきっかけ。これを聞きつけたゼミ生が面白がり、七人でプロジェクトチームを組織した。

効用、歴史的視点、環境、地産地消など、さまざまな視点で、それぞれがアイデアを出し、教授がまとめたという憲章は前文と九つの条文で構成。

ゼミ生がそろって自信作とする第一条「個人の尊重」では『おでんは日本伝統の料理であり、鍋を囲んで「みんな」で食べる、仲むつまじい一家だんらんの象徴であるが、缶詰おでんは「個人の尊重」の視点から、ひとり暮らしの老人、若者や男女の単身者の心と体をあたためる…』と格調高く缶詰おでんの役割をうたいあげた。

第二条は「缶詰おでんの特性」（以下おでん三原則、食材選択と地方性、食育への寄与、環境保護、災害時の役割、味の国際交流、国際平和―と続く。

第一条 個人の尊重
おでんは一家だんらんの象徴であるが、缶詰おでんは単身者の心と体をあたためる

同日、会見した信田社長は「大変よくまとまっている。缶詰おでんはここ数年なかった業界のヒット商品。缶の中で煮込[illegible]さんあり、おいしい。これを機会におでん缶詰へのこだわりを考えてほしい」と話した。

缶詰おでん憲章を発表する信田社長（左）とゼミ生の皆さん

同席したゼミ生のリーダー、桑本千紗都さん（二二）らは「憲法をどうしたら身近に思ってもらえるか、いつも考えている。面白い、ぜひ参加したいと思った。硬いながらもユーモアを入れ、分かりやすいものにした」などと話した。

同社ではこの憲章を広く公開し、缶詰おでんの普及を図っていく。当面は憲章をポップ広告に生かし、商品と一緒に展示することなどを計画しているという。

缶詰おでんは同社など国内数社が製造販売。同社製の銚子風おでんは地元食材を生かしたふるさと食品。秋葉原の電気街で火が付いたおでん缶人気で、昨冬は生産が間に合わないこともあった。今年夏前には脂質を抑えた冷やして食べる「夏おでん」を投入。缶詰業界の注目を集めている。